

としての効果が認められた。

合成木材の接着に関する研究

1. 目的

市販合成木材を木製品の部材として利用するためには木材との接着が考えられる。そこで合成木材と木材の接着について、接着剤、接着力について検討するために試験した。

2. 概要

本報ではホリスチロール合成木材について

合成木材同士及び合成木材と木材の接着に関し、3種類の接着剤を用い接着力試験を行った。

3. 成果

合成木材同士の接着には合成木材用接着剤が、合成木材と木材との接着にはエポキシ樹脂接着剤が秀れていることが明らかになり、合成木材と木材の接着に関する資料を得た。

スライス切削による単板の利用化研究

主任研究員 鎌 出 正 義

1. 目的

県産のタブ材、イタジイ材は特殊な性質があるため、その利用が一部に限られている。この研究は建築材の内装材としての利用開発と附価値性の向上を計る。

2. 概要

木理肌を生かしたスライス単板として、次の要領でおこなった。

2・1 製材木取りについて

① 柾目木取り、板目木取り

2・2 スライス前処理として

① フリッチの含水量測定

② 材質の硬軟選定

② 煮沸時間と温度の調整

柾材と板しい材の場合、各々材質の差があるため煮沸時間と温度の調整をしないとスライス工程中におよぼす影響が考えられるので温度調整をした。別図表に示す。

2・3 ナイフの性質とセッティング

① セッティングにおいては刃口とナイフとの間隙を 0.5^{mm}～1.0^{mm}として刃口と平行にし刃口上面より刃先は5^{mm}に調整する。この場合の器具としてダイヤルゲージを使用する（刃先角22°～24°）

2・4 接着剤と配合

① 尿素系～イゲタライム、酢ビ系～ボンド増量剤～小麦粉、硬化剤～塩化アンモニ